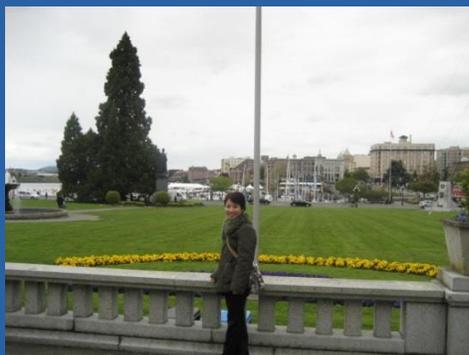


母語を正しく使えてこそ「真の国際人」

翻訳家 藤原斗希子
インタビュー



フィンランド在住の翻訳家の藤原斗希子さんにお話を伺いました。藤原さんは、日本で約 15 年間、企業勤めをした後、ご夫君の母国であるフィンランドに移住され、現在は息子さんと 3 人で暮らしていらっしゃいます。

○藤原さんのお仕事について教えていただけませんか。

現在は育児休暇中ですが、普段は実務翻訳の仕事をしています。また、CSR（企業の社会的責任）や Sustainability（社会の持続可能性）の分野のアドバイザーの仕事もしています。

○藤原さんは、日本人の日本語能力を第三者が認定できると良いのではとおっしゃっていますが、それは具体的にはどういうことなのでしょう。

海外、特に欧州に住むと、第二外国語、第三外国語と次から次へと他言語を使う必要性が出てきます。それと同時に、母語である日本語能力を維持していく必要性があります。

私の場合は、日本語に加え、英語、フィンランド語の言語を使いますが、どれも母語ぐらいのレベルを目指して日々鍛錬しています。しかし、長年海外に住んでいると、母語である日本語のレベルが落ちてきて、日本にいる日本人と会話が成り立たなくなることが少なくありません。

○同じ日本人でありながら、会話が成り立たなくなるというのは驚きですね。

言葉というのは時代と共に変化していきますから、海外に住んでいると国内のその変化についていくことが難しくなります。それに、尊敬語や謙譲語などの敬語を使う機会が少なくなりますから、本当に自分の話している日本語が正しいのかどうかと不安になる時があります。子ども達は補修校などで日本語を学ぶことができます。大人も日本人同士のコミュニティなどで話すことはできますが、例えそこで間違った使い方をしても誰も指摘はしませんし、大きな問題にはなりません。

○正しい日本語を日々の生活の中で聞く機会がないということなのですね。

そうですね。つい先日、在フィンランド日本人の間でこのことが話題に出ました。3 か国語を操るとどれも中途半端になってしまい、一番重要な母語である日本語の使い方が怪しくなるということです。これは自分たちのアイデンティティーの喪失になりかねません。

ここでは私たちは外国人ですから、第二、第三外国語についてはレベル試験を受験できます。でも母語のレベルについては当然誰も問いませんし、日本語検定試験もありません。

次ページへ続く 

○まだ、フィンランドで日本語検定を実施していないので大変申し訳ないのですが、母語である日本語能力を維持することは、海外では難しい面があるのですね。

日常生活にはそれほど支障は出ないかもしれませんが、私のような職業の者や他の職業の人でも日本へ出張したり学会などで日本語を話す機会がある人は、自分自身の母語の能力を維持することが必要です。自ら意識的に日本語を使う機会をつくらなくてはならず、私の場合は積極的に日本語の本を読んだり、子どもの日本語能力のために、子どもには常に日本語で話しかけています。

日本語検定試験を実施してもらえたら、自分の日本語能力を測ることはできます。もちろん、海外在住でも、住む地域とその人の職業や立場でこの日本語検定の必要性は異なってくるでしょう。

○日本国内にいと、なかなか理解しにくいことかもしれませんね。海外で生活したりビジネスをするのであれば、英語という方が多いのですが。

確かに、日本国内にいとあまりこういう状況に出くわすことがないかもしれませんが。しかし日本語の価値は外に出て生活してみると、いかに重要であるか身をもって知らされます。日本語を学んでいる外国人から日本語を教えてくれ、と言われることも珍しくありません。その時に「これが正しい日本語です」という自信と確信を持って言える土台の一つが、この日本語検定試験になるのかと思います。

国内ではグローバル化と言われて英語の習得に躍起になっているようですが、「真の国際人」というのは、まず母語を正しく使えることが前提になるのだと思います。

また日本人は世界に出ると語学だけではなく、やはり日本人として得ている評価で信頼度が高まることは未だにありますから、そのときに日本語能力のお墨付きがあれば、なお一層、信頼性は高まるでしょう。

○その場合の評価、信頼性とはどういうことなのでしょう。また、日本人としてある一定程度の日本語能力があると認定されていると、海外で信頼が高まるということなのでしょう。

この場合の評価、信頼性とは、日本語を操る外国人との差を明確にするためのものです。

昨今、日本語を操る外国人は増えていると思います。しかし「日本人」の日本語と「外国人」の日本語は、恐らく、違うと思います。これは私たちが英語をしゃべると同じように「外国人」が「外国語」を学ぶのと、ネイティブがその国で生まれ育った環境で自然に言葉を習得する差があります。このような差を明確にするものとして語学力の認定があると思います。

これも私のような職業などに限られるかもしれませんが、日本人だからといって日本語をきちんと話し、書けるかという、そうでもないと思います。日本語を操る外国人のレベルは年々上がってきているようですので、もしかすると、彼らに追い越される可能性もあります。それに、「外国人の日本語」を好むという人や状況もありますので、一概に日本人の日本語がベストだ、とは言い切れません。

○藤原さん、最後に何かメッセージをいただけませんか。

本当に言葉というのは使う環境によって真価が問われますので、日本（日本語）の場合、世界に出るとそれが痛いほどよくわかります。

日本語検定委員会が日本国内の日本語能力を向上させていくために活動されていることは当然ですが、今まで話したことから、世界各地に住む日本人に向けた日本語能力の維持と向上を促すことも、これからは必要になってくると思います。貴委員会にはぜひ期待しています。

○藤原さん、本日は誠にありがとうございました。私たちも、海外に在住する日本人の日本語能力の維持と向上に向けて努力してまいります。